

瀬戸谷中学生が「地域の困りごと」の解決策を考え、専門家に向けて発表 ～専門家と小中学生をつなぐキャリア教育～

本市では、子どもたちが様々な大人と出会い、確かな職業観を身につけるための「職業観育成事業」を、静岡大学の協力を得て実施しています。瀬戸谷中学校では、富士通株式会社の担当者を講師に招き、1年生11人が最新のテクノロジーを学びました。この知識をもとに、事前に地域住民にヒアリングして把握した「地域の困りごと」の解決策を考え、発表しました。

講師から学んだ、テクノロジーの分類「見える化」「自動化」「つながる化」をもとに3つのグループに分かれ、課題解決を目指しました。

発表の様子



住民へのヒアリングで知った瀬戸谷地域の課題

- ①空家が多い
- ②橋が多く災害で孤立してしまう可能性がある
- ③老人ホームが遠いことや、子どもを預けられる場所がなく、仕事や自分のために使う時間が少なくなっている。

生徒が考えた課題解決のアイデア

- ①電子瀬戸谷マップを作り、空家の情報を発信
- ②崩れた橋の位置情報を迅速に市に伝達し、早期復旧を図る
- ③保育園と老人ホームの機能を兼ねた施設を瀬戸谷に作る

最新テクノロジーを紹介

富士通が開発する「非接触型バイタルセンシング」でリアルタイムに複数人の呼吸や心拍などのバイタル情報を取得できます。提案のあった施設で行う健康チェックの自動化に利用できるかもしれません。



講師：富士通株式会社

通信機器・パソコン・ネットワークサービス・ITシステムなどを提供する電気メーカーです。DX 専門人材を派遣し、担い手不足や高齢化を抱える地方の課題解決を目指すなど、「テクノロジーで人を幸せにする」実践を行っています。

③をさらに詳しく

「自動化」の利用

施設内で時間ごとに行う健康状態のチェック（体温測定・脈拍など）を自動化する。

「見える化」の利用

チェックした健康状態を家族に送信し、安心して預けられる環境を整える。

期待される効果

地域で完結できることが増え、地域活性化につながる！

